

学 校 便 り 特別号4

札幌市立上白石小学校

<https://www16.sapporo-c.ed.jp/kamishiroishi-e/>



上白石



令和7年10月10日

『令和7年度 全国学力・学習状況調査(4月17日調査実施)』 本校6年生調査結果概要等のお知らせ

令和7年4月17日(木)に、全国の6年生を対象として『令和7年度 全国学力・学習状況調査』が実施されました。本調査は、全国的な児童の学力や学習状況を把握・分析し、学校における児童への教育活動の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的としています。

本校6年生の個人の結果につきましては、既に各家庭にお知らせしておりますが、この度、本校6年生全体の分析をお知らせいたします。このうち、「課題」につきましては、6年生だけの課題としてではなく、本校児童全体の課題として捉え、「改善の方向」も同時に、全学年を通じて改善を進めていく方向を示しております。

なお、文部科学省からの通知にもありましたが、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面であることを踏まえてご覧いただきたく存じます。

【小学校 国語】

教科に関する調査の結果概要及び改善の方向等について

本校の概要

「話すこと・聞くこと」

◇全国平均と比べ、上回っている。

「書くこと」

◆全国平均と比べ、下回っている。

「読むこと」

◆全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

「言葉の特徴や使い方に関する事項」

◆全国平均と比べ、下回っている。

「情報の扱い方に関する事項」

◆全国平均と比べ、下回っている。

「我が国の言語文化に関する事項」

◆全国平均と比べ、下回っている。

今回の調査における課題

●書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。

●事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。

●学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと。

●情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。

●時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くこと。

改善の方向

○書こうとしている材料の中から、中心に述べたいことを一つに絞り、中心となる事柄や、それに関わる他の書きたい事柄を明確にする活動の充実。

○理由や事例を書き出し、書き手の考えを自分の言葉で短くまとめる活動の充実。

○同音や同訓の漢字に注意し、言葉の意味を考えて文の中で正しく使う活動の充実。

○複雑な事柄を分解して捉えたり、多様な内容を要素ごとに分類したりする際に、短い語句で端的に表し、図で表しながら考えをまとめる活動の充実。

○語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使う活動の充実。

【小学校 算数】

教科に関する調査の結果概要及び改善の方向等について

本校の概要

「数と計算」

◆全国平均と比べ、下回っている。

「図形」

◆全国平均と比べ、下回っている。

「測定」

◆全国平均と比べ、下回っている。

「変化と関係」

◆全国平均と比べ、下回っている。

「データの活用」

◆全国平均と比べ、下回っている。

今回の調査における課題

●資料から必要な情報を選び、数量の関係を式に表し、計算すること。

●平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図すること。

●はかりの目盛りを読むこと。

●伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述すること。

●棒グラフから、項目間の関係を読み取ること。

改善の方向

○日常の事象について、目的に応じて必要なデータを収集し、データの特徴や傾向を捉え考察する活動の充実。

○辺の長さや角の大きさ、辺の位置関係に着目して、図形の構成の仕方について考察する活動の充実。

○はかりの最小目盛りの大きさに着目し、身の回りのものの大きさを単位を用いて表現する活動の充実。

○複数の情報から場面に基づいて必要な数量を見だし、絵や図などを用いて数量関係を捉えるとともに、その関係を式や言葉の式に表現する活動の充実。

○目的に応じて、差を求めたり、何倍かを求めたりしてグラフからデータの特徴や傾向を読み取る活動の充実。

【小学校 理科】

教科に関する調査の結果概要及び改善の方向等について

本校の概要

「エネルギー」

◆全国平均と比べ、下回っている。

「粒子」

◆全国平均と比べ、下回っている。

「生命」

◆全国平均と比べ、下回っている。

「地球」

◆全国平均と比べ、下回っている。

今回の調査における課題

●電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わることを理解すること。

●水の結露について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解すること。

●ヘチマの花のつくりや受粉について理解すること。

●氷がとけてできた水が海に流れていくことの根拠について、学習したことと関連付けて、概念的に理解すること。

改善の方向

○領域全般において、学習した知識を既習の内容や他の学習や生活と関係付け、習得した知識を整理する学習活動の充実。

「教科に関する調査」の結果から

調査の結果から、国語では、「話すこと・聞くこと」の内容で成果が見られました。一方で、国語においては、特に「書くこと」、算数においては特に「図形」、「測定」、理科においては特に「地球」、「生命」などの領域や問題形式に課題があり、学習活動や指導を工夫・改善すべき課題があることが明らかになりました。

本調査結果における成果や課題を踏まえ、今後、本校では、「学ぶ意欲の向上」と「基礎的・基本的な知識・技能の習得」をより一層図るため、的確な実態把握・分析をもとに、より個に応じた学習指導を行っていきます。また、T・Tや少人数指導の活用や一人一台端末の効果的な活用、漢字や計算のチャレンジテストの有効な取組等にも力を入れ、一人一人の確かな学びを保障して参ります。

【質問調査】 ウェルビーイング、人間尊重の教育に係る質問

- 肯定的な回答をしている児童の割合が、全国平均と同程度または上回っている
 - ・「自分には、よいところがあると思いますか」
 - ・「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」
 - ・「学校に行くのは楽しいと思いますか」
 - ・「人が困っているときは、進んで助けていますか」
- 肯定的な回答をしている児童の割合が、全国平均を下回っている
 - ・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」
 - ・「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」

【質問調査】 自治的な活動、基本的生活習慣、その他の質問

- 肯定的な回答をしている児童の割合が、全国平均と同程度または上回っている
 - ・「学級活動における学級の話合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか」
 - ・「あなたの学級では、学校生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」
 - ・「読書は好きですか」
 - ・「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」
- 肯定的な回答をしている児童の割合が、全国平均を下回っている
 - ・「地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがありますか（習い事は除く）」
 - ・「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」

【質問調査】 各教科への興味・関心、理解度 ICT 機器の活用に係る質問

- 肯定的な回答をしている児童の割合が、全国平均と同程度または上回っている
 - ・「国語の勉強は得意ですか」「国語の勉強は好きですか」
 - ・「国語の授業で、先生は、あなたの学習のうまくできていないところはどこかを伝え、どうしたらうまくできるようになるかを教えてください」
 - ・「理科の授業で学習したことを普段の生活に活用できていますか」
- 肯定的な回答をしている児童の割合が、全国平均を下回っている
 - ・「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」
 - ・「算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか」
 - ・「5年生までの学習でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはどれくらい当てはまりますか（4）画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる」

「質 問 調 査」の 結 果 か ら

調査の結果から、本校児童は、「将来の夢や希望をもつ」ことができ、「自分には、よいところがある」「先生は、よいところを認めてくれている」等、「自らをプラスのイメージでとらえ、自分の生活や将来と結び付けてより良い生活を創造していこう」という前向きな態度が育っていることが分かりました。一方で、「いじめは、どんな理由があってもいけない」「自分と違う意見について考えるのは楽しい」など、「違いを認めたり、違いを受け入れたりする態度」については更に育てていく必要があることが明らかになりました。また、ICT 機器の活用に関わっては、全体的に肯定的な回答が全国と比べて同程度か下回っている項目が多いこと、生活習慣に関わっては、「毎日同じくらいの時間に寝る」児童の割合が全国と比べて低いことが分かりました。

今後、「自分には、よいところがある」「人が困っているときは進んで助ける」という思いを大切にし、よりよい人間関係・社会生活の構築に向けて、人と関わる必要性や必然性、そして、「分かる・できる・楽しい授業」を大切にしながら、子どもたちの伸びや成長を価値付け、意欲を高める指導を続けていきます。

お 子 さ ん の 力 を 伸 ば す た め に

学校と家庭が一体となって子どもの学習習慣・運動習慣・生活習慣づくりを支える指針として、札幌市が作成した家庭向けリーフレット「さっぽろっ子『学び』のススメ」を4月に配付しております。このリーフレットでは、「学ぶ力」の育成に向けた五つのポイントを家庭向けに具体化し、その頭文字を取った「まほうのかいわ」を合言葉としています。

この「さっぽろっ子『学び』のススメ」の活用により、「子どもはどの子もよさや伸びる可能性をもっており、学校・家庭は子どもを認め、意欲を高めるメッセージを伝え、成長を促すように関わることが大切である」という子ども観・教育観を学校と家庭が共有することが重要と考えています。

また、子どもたちの学ぶ力を伸ばしていくためには、学校での学習はもちろんのこと、ご家庭でも子どもたちが進んで机に向かい、学習する意欲と習慣が欠かせません。また、基本的生活習慣の定着は、社会の中で生活していくうえで必要な、「お互いが守るルールや礼儀」「学習意欲や体力、気力」の育成につながります。

今後も、教職員一同、ご家庭の皆様とともに、学力だけではなく、子ども一人一人の“将来の社会人”として育ちを支えていきたいと考えております。ご家庭におかれましては、お子さんの確かな成長の機会や環境作りへのご協力を今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

